

Rainbow

All for 六中 ※このお便りは全校向けお便りです。

～六中ユニバーサルデザイン～



令和7年6月2日

調布市立第六中学校
校 内 通 級 教 室
No.2

体育大会が終わり、そろそろ期末試験が近づいてきています。

校内通級教室では、今年度も学校全体のインクルーシブ教育の構築に向けて取り組み、この「Rainbow」で様々な情報をお伝えしていきます。今月は、表面では本校での体育大会での取り組みについてのお話を、裏面では非認知能力についてお話します。

体育大会の形が変わり始めました

今年度より、「全種目に全員が参加するという形ではなく、種目によっては応援するという参加の形を選ぶことができる。」というものに体育大会が変わり始めました。今回はクラスリレー、大縄飛び、玉入れから、自分に合った選択肢を選ぶことができるという形で体育大会を開催しました。

今回の Rainbow では、新たな形となった初めての体育大会を終えた生徒たちの声を紹介したいと思います

今回の体育大会から、出る競技が選べるようになって良かったです。僕は、走ることで体力に自信がなくて不安だったけれど、出る競技が選べるようになった分、不安もなくなったし、出ることを選んだ競技に全力を注ぐことができて良かったです。また、応援を選んだ競技では、同じように応援を選んだクラスメイトと一緒に応援することで一体感が生まれて、それが嬉しかったし、思い出に残っています。来年の体育大会も、今年のような競技に出るか、応援するかを選べる形であつたら嬉しいと思います。

私は、走るのが遅くてクラスみんなに迷惑をかけるのではないかと不安があったので、競技を選べるようになって良かったです。私が今回選んだのは玉入れでした。玉入れではクラスの人々の応援の声も聞こえて力をもらえました。リレーや大縄は競技に出ないけど、大きな声で全力で応援しました。大縄では精一杯応援をしたら、練習の時よりも多く跳べたので感動したうれしかったです。競技に出ていなくてもクラスがひとつになって団結しているのを感じました。クラスは優勝することはできなかったけど、勝ち負けに関係なく体育大会を楽しむことができていい思い出になりました。



非認知能力って、ご存じですか？

- ① **IQ やテストで測れる力**（知力・学力・体力など）＝認知能力
- ② **考え方、取り組み姿勢、行動など日常・社会生活に大切な力**（実行力・忍耐力・問題解決能力・協働能力・コミュニケーション力・自己管理能力など）＝**非認知能力**

非認知能力が注目されるようになったのは、ノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・J・ヘックマン氏らの研究チームが社会的なリターンがある（＝幸福な人生を送る）要素には、子供時代にテストでは測れない力（＝非認知能力）の育成が重要だということを経済学の理論で示したことが始まりでした。

非認知能力の育成は、今までの学校教育でも普通に行われてきたことでした。例えば校外学習の班行動にて、グループでどこへ行くかを決める話し合いでは、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力、相手と協力しながら話し合いを進める力、問題点がどこかを論理的に考える力・・・数限りなく非認知能力が養われていました。

しかし、人は点数化できるものに目が移りやすく、いつしか非認知能力を獲得するよりも、認知能力の獲得に興味が行き、重きが置かれ過ぎている気がします。

ここで、一つお断りしておきたいのは、「認知能力はいらない」と極端な話をしているのではないです。イメージとしては、実のなる大きな木をイメージしてください。根っこや幹に当たるのが「非認知能力」、そしてつけた実が「認知能力」です。つまり、非認知能力を磨くことが、認知能力の立派な実をつけることに大きく関係するのではないか、ということです。急がば回れです。子供達に大きな実をつけてもらうために、まずは非認知能力を高める機会をご家庭でも積極的に作ってみてはいかがでしょうか。

